

令和6年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

和庄中学校区 校番14 呉市立本通小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
確かな学力	学力の向上	主体的・対話的で深い学びにつながる思考力・判断力の育成	○校内全体では、目標値の70%を上回っている。 ○計算の技能が身に付いた児童が増えている。 ●学年により60%未満の児童が3～15%いる。 ●文章題において、問題場面把握を意識させたが、問題解決に関する情報(キーワードや公式)等を見つけ、引き出し立式する力にまだ課題がある。 ○「和庄中学校区授業モデル」による自己評価アンケート(①発問の工夫 ②ITCの活用 ③思考ツールの効果的活用)では、達成度104%である。和庄中学校区授業モデルを意識した授業づくりを進めている教師が増えている。夏季休業中に思考ツールの研修を行ったことで、思考ツールを効果的に活用するクラスが増えた。 ●思考ツールを効果的に活用するために、事前の教材研究を行う時間の確保が必要である。	・学力アップタイムや授業においてキュビナを活用し、基本的な知識の定着を図り、前学年の内容も含め、単元に係る既習事項の復習を行う。また、児童の課題を把握し、授業改善に生かす。 ・朝読書や家庭学習における音読、読み上げ計算(音声計算)等を取り入れる。 ・ペア、グループ、全体と色々な形態で個の考えを引き出し、自分の考えを伝えたり、再構築したりする時間を確保し、学びの深まりを振り返りで意識付ける。 ・授業の終わりに、適応問題に取り組む時間を確保するようにする。 ・単元に沿って、効果的に思考ツールを活用し、個々の考えを可視化しながら主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善を進める。 ・思考ツールを活用して、自分の考えを書いたり伝えたりさせ、表現する力を育てる。
		自分の命は自分で守る児童の育成	○校内研修で、総合的な学習の時間に行う防災教育について各学年で見直しを行い作成し直した。 ○避難訓練の事前・事後指導を大切に、「自分の命は自分で守る」という意識を高めている。 ○災害の種類に応じた身の守り方についてICTを活用して学習したり、学んだことを振り返ったりすることができた。 ○緊急放送を「動きを止めて黙って聞くこと」ができるように全校で「シーダンボ」を合い言葉に取り組むことができた。	・引き続き避難訓練の事前・事後指導を大切に、外部講師との連携を図り、系統的な防災教育を実施する。また、実施した内容を記録しておく。 ・保護者アンケートを行い、学校通信等で家庭や地域に防災教育の更なる啓発を図る。 ・日頃から「シーダンボ」を合い言葉に、いつでもどこでも誰の放送でも静かに聞くことを習慣化させる。
豊かな心	和庄中学校区スピリットに基づく児童(生徒)の育成	粘り強くやり抜く児童の育成	○生活目標が達成できたかについて、教職員の見取りは中間と比べて5%増加している。 ○2学期の生活目標が時間厳守と掃除のことであったため、教師や子供同士で声かけがしやすく、意識して過ごす児童が多かった。 ●掃除については、担当場所によって教師の目が届きにくく、指導しなければならないことがあった。	・大休憩の終わりのチャイムを守って遊びをやめることはできているが、トイレや授業準備で遅れてしまうことがあるので、休憩のはじめに終わらせることを徹底する。 ・掃除については、引き続き担当教員が掃除場所を巡回することで、肯定的な声かけや指導を行う。 ・各掃除場所の掃除の仕方を児童と一緒に再確認し、時間内に効率的に行えるようにする。
		礼儀正しく感謝の心をもつ児童の育成	○校長先生からのミッションにより、返事を意識してできる児童が1学期よりも増えている。 ○「ありがとうの木」の掲示を前回よりも長めに設定することができ、自分や友達のよさを改めて実感することができる機会となった。 ●靴揃えができたと答える児童の割合が減少している。	・「ありがとうの木」は掲示を見ていない児童もいるので、掲示だけでなく、放送も使って紹介する機会を設ける。 ・靴揃えができていない学級の写真をロイロノートで各学級に送ったり、学期末に行っている靴揃えの表彰を学期の中間にも行ったりすることで、肯定的な評価を行う機会を増やし、児童が主体的に靴揃えに取り組めるようにする。
健やかな体	健康促進・体力の向上	体力・運動能力の向上	○新体力テスト(2回目)で、学校平均が県平均を上回る種目の割合は65.6→75%となり、当初目標の70%を上回ることができた。体力・運動能力の向上に向けた取り組みが効果を発揮しているといえる。 ○全学年で学期に2回以上「くれチャレンジマッチスタジアム」に取り組むことができた。 ○学級指導等を通して休憩時間の外遊びが意識付けられ、体力向上の要因となったと思われる。	・体育授業前にサーキット運動を行い、鉄棒雲梯では握力、ダッシュ運動やスキップでは走力を高める。 ・各学年で学期に2回以上「くれチャレンジマッチスタジアム」に取り組むことで、意欲的に体力づくりをしようとする児童を育成する。 ・体育授業において、低学年はおにごっこやドッジボール、中・高学年は3歩ダッシュ、スキップ、競走ダッシュを取り入れる。 ・休憩時間の外遊びを全学年で意識付け、ドッジボールやおにごっこ等の遊びを推奨する。
		基本的な生活習慣の確立	○アウトメディアの目標達成の状況は、低学年98%、中学年95%、高学年86%で、全体の達成度は高かった。生活委員会による「元気っ子クイズ」の放送や、担任等の丁寧な声掛け等の成果だと考えられる。 ●特に高学年の目標未達成者のうち、ほとんど毎日達成できていない児童が一定数いるため、個別に対応していくことが必要である。	・引き続き、委員会による啓発や児童・家庭への発信、担任等による確認や個別の声掛けなどを行い、意欲を高める。 ・ほとんど毎日達成できていない児童については、日々の関わりの中から実態把握に努める。また、児童が生活習慣を改善していけるよう、家庭を巻き込んで、保護者と連携しつつ支援していく。
働き方改革	教職員の主体性・積極性が発揮できる教育環境の整備	児童生徒と向き合う時間の確保	○様々な事案に対して、組織的な対応を意識しながら進めることができた。 ○外部人材を積極的に活用することができた。 ○午後は短縮時間割にすることで、教材研究・成績処理等の時間を確保することができた。	・さらに組織的に取組を進めることができるよう、全教職員で共通認識をもつ。 ・人材バンクの整理をする。 ・次年度に向けて、本年度の取組内容を見直し、精選・工夫することで、効率的かつ効果的な教育活動の推進を目指す。